

平成17年3月18日

午後2時00分

記者発表資料

大阪経済記者クラブ 加盟社各位

関西広域連携協議会

「容器廃棄物回収システムにかかるアンケート調査」の実施結果について

記者発表

大阪経済記者クラブ

同時提供

福井県政記者クラブ

三重県政記者クラブ

滋賀県政記者クラブ

京都府政記者クラブ

大阪府政記者クラブ

兵庫県政記者クラブ

奈良県政記者クラブ

和歌山県政記者クラブ

徳島県政記者クラブ

京都市政記者クラブ

神戸市政記者クラブ

【連絡先】

関西広域連携協議会

企画第1部

部長 柳井

主任調査役 西谷

電話 06-4803-5572

FAX 06-4803-5574

【参考】

「関西広域連携協議会」は、関西の2府7県3政令市と経済界により、全国初の官民の包括的な広域連携組織として、平成11年6月に設立された組織です。

関係機関との協調・連携により「関西は一つ」の理念のもと、21世紀にふさわしく明るく元気な活気あふれる「KANSAI」の創造実現に向けて取り組んでいます。

●構成団体

福井県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、徳島県、

京都市、大阪市、神戸市、(社)関西経済連合会、大阪商工会議所、

(社)関西経済同友会、関西経営者協会、京都商工会議所、神戸商工会議所

## 「容器廃棄物回収システムにかかるアンケート調査」の実施結果について

関西広域連携協議会では、平成15年に提案した「容器廃棄物回収システム」の普及に努めているところであり、今年度、2会場において本回収システムにかかるアンケート調査を実施した。

### 1 調査目的

関西広域連携協議会が容器廃棄物の資源としての活用と散在性ごみの減少による環境美化の推進を図るために提案している、散在性の飲料用容器廃棄物(ペットボトルや空き缶、紙コップ等)の新たな回収システムに対する消費者の意向を把握することにより、本システムの普及促進の一助とすることを目的に実施した。

### 2 調査日および調査場所

- (1) 滋賀会場 平成16年10月20日(水)から22日(金)(3日間)  
びわ湖環境ビジネスメッセ2004(滋賀県立長浜ドーム)
- (2) 京都会場 平成16年11月11日(木)日から12日(金)(2日間)  
京都工芸繊維大学(大学生協食堂周辺)

### 3 調査方法

会場内に設置された飲料用容器廃棄物の回収機を活用し、パネルやチラシ等を用いて来場者等に本システムを説明するとともに、空き缶やペットボトル、紙コップの投入体験等を行って頂いた上で、別添、アンケート調査票により容器回収システムに対する意見を聞いた。

### 4 調査内容

関西広域連携協議会が提案している次の2つの容器回収システムについて聞いた。

- (1) 預り金返却方式の回収システムについて(滋賀会場および京都会場で実施。)
- (2) 回収報奨金方式の回収システムについて(滋賀会場で実施。)

#### 【システムの概要】

##### ● 預り金返却方式の空き容器回収システムの概要(詳細は別紙チラシ参照)

預り金返却方式による回収システムは、商品を販売する際に、予め容器代(例えば紙コップ1杯当たり10円)を含めた金額で販売し、容器を投入すると、容器代が返却されるもので、空き容器回収の促進を図る制度である。このシステムは病院や事務所、学校といった屋内の閉鎖空間に適している。

##### ● 回収報奨金方式の空き容器回収システムの概要(詳細は別紙チラシ参照)

回収報奨金方式による回収システムの多くがRVMと言われている。RVMとはReverse Vending Machineの略称で、戻す(Reverse)自動販売機(Vending Machine)により、空き飲料缶やペットボトルの分別・回収を行うシステムである。

RVMに容器を入れるとセンサー等で容器の種類を見分け、分別・減容して回収する。利用者である住民が空き缶やペットボトルを返却する際に、当たり券を発行したり、磁気カードにポイントが加算され、ポイントが満点になれば、商品券等と引き換えることによって、容器回収リサイクルを促進しようとするものである。

## 5 調査結果の概要

### (1) 調査票回収数

預り金返却方式について 1,768票(滋賀会場1,020票、京都会場748票)

回収報奨金方式について 1,020票(滋賀会場のみ)

### (2) 調査対象の特性

(単位:人)

回答者の性別	滋賀会場	構成比	京都会場	構成比	計	構成比
男性	875	85.8%	544	72.7%	1,419	80.3%
女性	145	14.2%	173	23.1%	318	18.0%
性別無回答	0	0.0%	31	4.1%	31	1.8%
合計	1,020	100.0%	748	100.0%	1,768	100.0%

(単位:人)

回答者の年齢	滋賀会場	構成比	京都会場	構成比	計	構成比
19歳以下	3	0.3%	182	24.3%	185	10.5%
20歳代	158	15.5%	531	71.0%	689	39.0%
30歳代	250	24.5%	19	2.5%	269	15.2%
40歳代	255	25.0%	7	0.9%	262	14.8%
50歳代	242	23.7%	2	0.3%	244	13.8%
60歳以上	109	10.7%	2	0.3%	111	6.3%
年齢無回答	3	0.3%	5	0.7%	8	0.5%
合計	1,020	100.0%	748	100.0%	1,768	100.0%

(単位:人)

回答者の業種(滋賀会場)			回答者の業種(京都会場)		
	人数	構成比		人数	構成比
会社員	667	65.4%	学生	611	81.7%
官公庁	125	12.3%	院生	103	13.8%
大学・試験研究機関	31	3.0%	教員	2	0.3%
自営業	62	6.1%	職員	5	0.7%
一般市民	25	2.5%	その他	19	2.5%
学生	33	3.2%	業種無回答	8	1.1%
その他	68	6.7%			
業種無回答	9	0.9%			
合計	1,020	100.0%	合計	748	100.0%

### (3)各質問項目の回答結果

#### 預り金返却方式の回収システムについて(滋賀会場・京都会場共通質問)

##### 「預り金返却方式の回収システムを知っている」

(単位:人)

	滋賀会場	構成比	京都会場	構成比	計	構成比
①利用したことがある	365	35.8%	598	79.9%	963	54.5%
②聞いたことがある	354	34.7%	109	14.6%	463	26.2%
③知らなかった	299	29.3%	39	5.2%	338	19.1%
無回答	2	0.2%	2	0.3%	4	0.2%
合計	1,020	100.0%	748	100.0%	1,768	100.0%

「利用したことがある」と回答した者は、滋賀会場35.8%、京都会場79.9%で、全体では54.5%であった。また、「聞いたことがある」と回答した者は、滋賀会場34.7%、京都会場14.6%で、全体では26.2%であった。

京都会場における認知度が高いのは、飲料自動販売機に併設された容器回収機が大学キャンパス内に常設されており、回答者の大半が本学に通学・通勤する学生や教職員であったことによるものと推察される。

##### 「預り金返却方式の回収システムが通勤・通学・居住先に導入されたら利用したい」

(単位:人)

	滋賀会場	構成比	京都会場	構成比	計	構成比
①利用したい	854	83.7%	629	84.1%	1,483	83.9%
②利用したくない	62	6.1%	22	2.9%	84	4.8%
③どちらとも言えない	103	10.1%	96	12.8%	199	11.3%
無回答	1	0.1%	1	0.1%	2	0.1%
合計	1,020	100.0%	748	100.0%	1,768	100.0%

「利用したい」と回答した者は、滋賀会場83.7%、京都会場84.1%で、全体では83.9%であり、本回収システムに対する利用志向は高い。

預り金返却方式の回収システムを「利用したい」と回答した理由

(単位:人)

	滋賀会場	構成比	京都会場	構成比	計	構成比
①ごみ散乱防止の効果が期待できるから	403	47.2%	274	43.6%	677	45.7%
②リサイクル活動の効果が期待できるから	308	36.1%	258	41.0%	566	38.2%
③子供の環境教育につながる等のメリットが期待できるから	104	12.2%	34	5.4%	138	9.3%
④容器回収機の利用が楽しそうだから	32	3.7%	40	6.4%	72	4.9%
⑤その他( )	3	0.4%	15	2.4%	18	1.2%
無回答	4	0.5%	8	1.3%	12	0.8%
合計	854	100.0%	629	100.0%	1,483	100.0%

両会場で「ごみの散乱防止の効果が期待できるから」が一番多く(滋賀会場47.2%、京都会場43.6%)、次いで「リサイクル活動の効果が期待できるから」が滋賀会場36.1%、京都会場41.0%であり、この2つの理由が全体の8割強を占めている。

また、その他の主な意見として、「お金が返って来て、リサイクルができるなら嬉しいから」、「10円が戻る、お得感が出る。」等の意見があった。

預り金返却方式の回収システムを「利用したくない」と回答した理由

(単位:人)

	滋賀会場	構成比	京都会場	構成比	計	構成比
①ごみの散乱防止やリサイクル、環境教育等の効果が期待できないから	6	9.7%	2	9.1%	8	9.5%
②容器回収機に空き容器を戻しに行く手間や経費がかかるから	26	41.9%	8	36.4%	34	40.5%
③お金を預ける方式に納得できない	9	14.5%	4	18.2%	13	15.5%
④預けたお金が戻って来るのみで、何らそれ以上の特典がないから	6	9.7%	3	13.6%	9	10.7%
⑤その他( )	14	22.6%	3	13.6%	17	20.2%
無回答	1	1.6%	2	9.1%	3	3.6%
合計	62	100.0%	22	100.0%	84	100.0%

「容器回収機に空き容器を戻しに行く手間や経費がかかるから」が両会場が一番多く(滋賀会場41.9%、京都会場36.4%)、次いで「お金を預ける方式に納得できない」が滋賀会場14.5%、京都会場18.2%であり、この2つの理由が全体の5割強を占めている。

また、その他の主な意見として、「面倒である」、「都合の良い場所に回収機が設置できるか疑問である」、「全飲料に同システムが導入されないと、他の方法に流れるため」等があった。

「預り金返却方式の回収システムの機械設置場所として、利用しやすい場所」はどこか  
(最高3つまで複数選択)

(単位:人)

	滋賀会場	構成比	京都会場	構成比	計	構成比
①スーパーや商店街等、よく買い物に行く場所	762	32.8%	417	24.5%	1,179	29.3%
②家の近くのお店	348	15.0%	275	16.2%	623	15.5%
③公民館、役所の支所、図書館等の公的施設	189	8.1%	205	12.0%	394	9.8%
④駅前やバス停の近く	412	17.7%	349	20.5%	761	18.9%
⑤会社や事業所、学校、病院の中	324	13.9%	301	17.7%	625	15.5%
⑥車の駐車スペースがある所であれば、設置場所はどこでも良い	126	5.4%	51	3.0%	177	4.4%
⑦自分の都合の良い時間帯に利用できれば、設置場所はどこでも良い	118	5.1%	84	4.9%	202	5.0%
⑧その他( )	31	1.3%	13	0.8%	44	1.1%
無回答	14	0.6%	7	0.4%	21	0.5%
合計	2,324	100.0%	1,702	100.0%	4,026	100.0%

全体では、「スーパーや商店街等、よく買い物に行く場所」が29.3%と一番多く、次いで「駅前やバス停の近く」が18.9%、「家の近くのお店」が15.5%となっており、これらの3つの理由が全体の6割強を占めている。

「公民館・図書館等」や「病院、事務所、学校」といった屋内の閉鎖空間に設置を希望する者は3割程度であった。

また、その他の主な意見として、「コンビニエンスストア」、「パチンコ店等のアミューズメント施設」、「学生寮」、「ガソリンスタンド:定期的に行くし、ほどよく汚れていて気がねしない」、「無人の所には安全面から言って設置しない方がよい」等があった。

「預り金返却金方式」についての自由意見

「預り金返却方式」について、次のような意見があった。(一例)

(滋賀会場)

- ・地域の美化、環境整備に適したシステムである。
- ・子供など、気軽に利用できると思われることから、ごみ捨て防止や、リサイクル意識といった体験実習が身近なものとしてとらえられるので教育上良いと思う。
- ・市町村がどんどん推進すべきと思う。
- ・街でほとんどみたことがない。設置台数を増やすべき。
- ・値上げと間違われぬような十分なアピールが自動販売機等に必要。
- ・販売業者が責任をもって回収するようにしたらどうか。

(京都会場)

- ・容器を戻すきっかけとなって、ごみ散乱防止にもリサイクルの促進にもなるし良い。
- ・良いシステムだが、まだ少ないので増やすべきだと思う。
- ・休憩所など、飲む場所と一体化していることが望ましいと思う。
- ・浮いたお金を環境のために使って欲しい。
- ・回収する機械が自販機の横以外にもあると便利。

### 回収報奨金方式の回収システムについて(滋賀会場のみ調査)

#### 「回収報奨金方式の回収システムを知っている」

(単位:人)

	滋賀会場	構成比
①利用したことがある	75	7.4%
②聞いたことがある	272	26.7%
③知らなかった	668	65.5%
無回答	5	0.5%
合計	1,020	100.0%

「利用したことがある」が7.4%で、「聞いたことがある」が26.7%、「知らなかった」と回答した者が65.5%であった。預り金返却方式の認知度と比較すると低い結果となっている。

#### 「回収報奨金方式の回収システムが通勤・居住先に導入されたら利用したい」

(単位:人)

	滋賀会場	構成比
①利用したい	841	82.5%
②利用したくない	56	5.5%
③どちらとも言えない	117	11.5%
無回答	6	0.6%
合計	1,020	100.0%

「利用したい」と回答した者は82.5%であり、預り金返却方式の回収システムの利用志向と同程度の結果であった。

回収報奨金方式の回収システムを「利用したい」と回答した理由

(単位:人)

	滋賀会場	構成比
①ごみ散乱防止の効果が期待できるから	318	37.8%
②リサイクル活動の効果が期待できるから	229	27.2%
③ポイント還元システムで何らかの特典が期待できるから	98	11.7%
④子供と一緒に利用することにより環境教育につながる等のメリットが期待できるから	94	11.2%
⑤容器回収機の利用が楽しそうだから	30	3.6%
⑥ごみ収集日でなくても、利用できて便利だから	61	7.3%
⑦その他( )	3	0.4%
無回答	8	1.0%
合計	841	100.0%

「ごみの散乱防止の効果が期待できる」が37.8%、「リサイクル活動の効果が期待できる」が27.2%であり、この2つの理由が全体の7割弱を占めている。

また、「ポイント還元による特典の期待」や「子供との利用による環境教育の期待」は各1割程度となっている。

その他の主な意見として、「地域の商店街の活性化、地域における資源循環につながるから」、「地域の商店街の活性化の道具として利用できたら良い」等があった。

報奨金回収方式の回収システムを「利用したくない」と回答した理由

(単位:人)

	滋賀会場	構成比
①ごみの散乱防止やリサイクル、環境教育等の効果が期待できないから	7	12.5%
②投入に手間がかかりそうだから	12	21.4%
③回収機が受け付けなかった容器を持ち帰らなければならないから	2	3.6%
④回収機の設置場所まで、空き容器を持っていくのが面倒だから	6	10.7%
⑤特典に魅力がないから	11	19.6%
⑥その他( )	14	25.0%
無回答	4	7.1%
合計	56	100.0%

「容器回収機への投入に手間がかかりそう」が21.4%、「還元される特典に魅力がない」が19.6%、「ごみの散乱防止やリサイクル、環境教育等の効果が期待できないから」が12.5%となっている。

その他の主な意見として、「ポイントカードを常に持参する必要がある。カードが多すぎてあまり持ちたくない」、「回収は業者の義務」、「特典で進めるのは限界がある。もっと進んだ考え方で推進すべき」、「設置や返金にかかる経費が気になるから」等があった。

「回収報奨金方式の回収システムの機械設置場所として、利用しやすい場所」はどこか  
(最高3つまで複数選択)

(単位:人)

	滋賀会場	構成比
①スーパーや商店街等、よく買い物に行く場所	798	34.2%
②家の近くのお店	371	15.9%
③公民館、役所の支所、図書館等の公的施設の近く	208	8.9%
④駅前やバス停の近く	382	16.4%
⑤会社や事業所の中	268	11.5%
⑥車の駐車スペースがある所であれば、設置場所はどこでも良い	124	5.3%
⑦自分の都合の良い時間帯に利用できれば、設置場所はどこでも良い	127	5.4%
⑧その他( )	24	1.0%
無回答	33	1.4%
合計	2,335	100.0%

「スーパーや商店街等、よく買い物に行く場所」が34.2%、「駅前やバス停の近く」が16.4%、「家の近くのお店」が15.9%であり、この3つの理由が全体の6割強を占めている。

その他の主な意見として、「コンビニエンスストア」、「ガソリンスタンド」、「イベントがあったりした時、そこでゲーム等お楽しみ感覚で、その場だけで行うというのは良いかも?と思います」、「自販機と並列に設置すると良い」等があった。

「回収報奨金方式」についての自由意見

「回収報奨金方式」について、次のような意見があった。(一例)

- ・率先した回収が期待される(景品による)
- ・公園など子供が良く利用する場所にあると、環境教育に役立つので良いと思います。その場合は文具の交換など。
- ・商店等の振興につながると思われる。
- ・役所の回収との区別をはっきりと周知する必要がある。
- ・ポイント点数等は共通で使用できる方が良い。
- ・特典を進めるのは限界がある。補助金の場合と同じで、財政的な支援がなくなったら続かなくなるのではないか。
- ・お金がもらえなくても、ごみは定められたところへ出すか自ら処分すべき。社会人としてのマナーである。